

2026年度 文学部聴講生

講義要項

(哲学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2026.4 - 2027.3

科目名: 古代中世西洋哲学史(1)／西洋哲学史(1)

担当教員: 出村 和彦

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 水2

配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-WP1-J103

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:0

更新者: AA2435

更新日時: 2026-01-04 17:04:0

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

自己と世界(自然・宇宙)、そしてそれらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのか?今年度の哲学史講義は、このような根本的な問いを、地理的、言語的、さらに宗教的にも異なるギリシア、ラテン、アラビア、シリアといった多様な文化圏の交流史を背景として概観しながら、そこに一貫して流れる存在観および倫理観の系譜をたどる試みとして問い直してみたい。前期は古代ギリシア哲学を中心に論じる。

なお、実施方法は、全て面接形式で進める。

科目目的

自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのかという根本的な問いを、具体的な哲学史的事例を詳細にたどることによって解明していくことを目的とする。

到達目標

具体的な哲学史的事例を自分なりの言葉で他者に説明できるようになり、さらに自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのかという根本的な問いに自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。

授業計画と内容

実施方法は、全て対面方式で実施する。

- 第1回 インTRODクシヨN: 古代ギリシア哲学史をどのように学ぶか?
- 第2回 ソクラテス以前の哲学(イオニア学派: 自然学の勃興)
- 第3回 ソクラテス以前の哲学(ヘラクレイトス: 絶えず変転する世界)
- 第4回 ソクラテス以前の哲学(パルメニデス: 存在論の始まり)
- 第5回 ソクラテス以前の哲学(ピタゴラス派: 数的調和の神秘)
- 第6回 ソクラテスの哲学とは何だったのか?
- 第7回 ソクラテスの論駁法とその目的
- 第8回 プラトン: 対話篇とは何か?
- 第9回 プラトン: イデア論とは何か?
- 第10回 プラトンからアリストテレスへ
- 第11回 アリストテレス: カテゴリー論と実体論
- 第12回 アリストテレス: 魂(アニマ)・生命・認識
- 第13回 アリストテレス: 倫理学と政治学
- 第14回 前期のまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレヅメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	35% 期末レポート 35
平常点	30% manabaの「小テスト」3回 10x3=30
その他	35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。前期の講義は14回あるので、2.5x14=35とカウントする。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメと資料を配布する。なお、自学用の参考書として、前期は『世界哲学史 I』『世界哲学史 II』(ちくま新書、2020年)を推薦する。その他の参考文献に関しては授業でその都度、指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 古代中世西洋哲学史(2)／西洋哲学史(2)

担当教員： 出村 和彦

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1年次配当

科目ナンバー： LE-WP1-J104

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:0

更新者： AA2435

更新日時： 2026-01-04 17:04:5

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

自己と世界(自然・宇宙)、そしてそれらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのか？今年度の哲学史講義は、このような根本的な問いを、地理的、言語的、さらに宗教的にも異なるギリシア、ラテン、アラビア、シリアといった多様な文化圏の交流史を背景として概観しながら、そこに一貫して流れる存在観および倫理観の系譜をたどる試みとして問い直してみたい。後期はヘレニズム期の哲学諸派から説き起こし、近代を先取りした後期スコラ哲学まで、中世哲学を中心に論じる(したがって、後期の内容を十分に理解できるためには、前期の講義も受講済みであることが望ましい)。

なお、実施方法は、全て面接形式で進める。

科目目的

自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのかという根本的な問いを、具体的な哲学史的事例を詳細にたどることによって解明していくことを目的とする。

到達目標

具体的な哲学史的事例を自分なりの言葉で他者に説明できるようになり、さらに自己と世界(自然・宇宙)、それらを超越し、あるいは／かつ、それらに内在する根拠について、古代ギリシア人がどのような思索を展開していったのか、また、その哲学的思索が東西のキリスト教圏においてどのように批判的に継承されていったのかという根本的な問いに自分なりの考えがもてるようになることを目標とする。

授業計画と内容

- 実施方法は、全て対面方式で実施する。
- 第1回 インTRODクシヨン：古代から中世へ：ヘレニズムの哲学(1)エピクロス派
 - 第2回 ヘレニズムの哲学(2)ストア派
 - 第3回 ヘレニズム・ローマの哲学 後期ストア派
 - 第4回 ローマ帝国とアレクサンドリア
 - 第5回 中期プラトン主義：ユダヤ教におけるプラトン主義の受容：フィロン
 - 第6回 キリスト教の成立：教父哲学の展開
 - 第7回 新プラトン主義：プロティノス・ボルフィリオス・プロクロス
 - 第8回 デイオニュシオス・アレオパギテースからエリウゲナへ
 - 第9回 アウグスティヌスの思想
 - 第10回 西欧中世の始まり：カロリングルネサンス
 - 第11回 初期スコラ哲学における神の存在証明：アンセルムス
 - 第12回 12世紀の学問：アベラルドゥス
 - 第13回 大学の成立：盛期スコラ哲学：トマス・アキナス
 - 第14回 14世紀の新たな風景：主知主義から主意主義へ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	35% 期末レポート 35
平常点	30% manabaの「小テスト」3回 10x3=30
その他	35% 毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。前期の講義は14回あるので、2.5x14=35とカウントする。

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書という扱いではありませんが、以下を授業でも使用する予定です。自学用の参考にしてください。
K・リーゼンブーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 倫理学概論**担当教員： 大山 真樹**

履修年度：2026 学期：通年

開講曜日時限： 火2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE2-J211

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:0

更新者：AD1165

更新日時：2026-01-12 08:09:5

授業形式

この授業は対面の講義形式です。

最低限度の資料は作成いたしますが、重要なことは口頭で説明します。教員が口頭で説明したことをノートに取り、テストに備えてください。

履修条件・関連科目等

哲学・西洋哲学史・東洋哲学史・キリスト教などの関連科目を履修することが望まれます。特に古代中世西洋哲学史は、関連性が高い科目になります。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

伝統に根差しながら新しい倫理学のうねりとして20世紀後半に復活した「徳倫理学」に依拠しつつ、「幸福」という観点から、様々な倫理的な問題を問い直してゆきます。そのためにまず、カント・功利主義らを代表とする近代の倫理学・道徳哲学における幸福概念を批判的に再考します。次いで、「善く生きる」という意味での「幸福」と、非運・貧困・孤独・愚行・生きる意味などを対比させ、「幸福」の理解を深化させてゆきます。それらの過程を経て、最終的には、倫理的視角の広範な構築・解体・再編成をめざします。

科目目的

この科目は以下の3点を目的とします。

- ① 西洋哲学史を通じて提示されてきた様々な倫理的な主題を振り返る。
- ② 様々な倫理的な主題に「幸福」という観点から切り込む。
- ③ 様々な倫理的な主題型の哲学的な主題(形而上学・知識・言語・心・歴史・政治)と分かち難い連関を持っていることを見出す。

到達目標

家族や友人など身近な人たちの問題からグローバルな地球環境や世界政治・経済の問題に至るまで、多様な問題をはらむ出来事に触れて、倫理的な問いを提起できるようになってもらいます。そのためにまた、思想史的な背景をきちんと理解・習得した上で、具体的な問題に関するケーススタディを通じ、倫理的に物事を読み取り・考え・表現する力を身につけてもらいます。

授業計画と内容

授業でどのような議論がなされるかに応じて、授業の進捗は大きく左右されることとなりますが、一応の授業計画を示しておくならば、以下のようになります(あくまで「目安」です)。

<前期>

- 第1回 イントロダクション：倫理学の学び方について(道徳・倫理・倫理学)
- 第2回 哲学と倫理学：真の「善」と真の「真」
- 第3回 神話・宗教から倫理の $\lambda\delta\gamma\omicron\varsigma$ へ
- 第4回 古代ギリシア倫理学の始まりとしての驚き(ソクラテスの刑死)
- 第5回 刑死するソクラテスの「正義」とその背後にあるホメロスの「善」
- 第6回 法の思想史的転回：魂から意志へ
- 第7回 【調整日】必要であれば小テストを開催するかもしれませんが
- 第8回 便利な概念「自由意志」：アクラシア・弁神論
- 第9回 カント(1)超越論的弁証論における「自由意志」の確保
- 第10回 カント(2)実践理性の分析論における「幸福」の意味
- 第11回 カント(3)定言命法の善は妥当性を持つか
- 第12回 功利主義：近代的倫理の基本概念
- 第13回 正義論による功利主義の再考
- 第14回 前期のまとめ：中間試験

<後期>

- 第1回 イントロダクション：アリストテレスの復権(徳と幸福)
- 第2回 功利主義の原理は幸福か
- 第3回 幸福と苦境は両立するか：ヘレニズムのコスモポリテース再考
- 第4回 幸福と貧困は両立するか(1) 幸福と富
- 第5回 幸福と貧困は両立するか(2) 幸福と資本主義
- 第6回 幸福と愚かさは両立するか：フロネーシスと愚行権

- 第7回 【調整日】必要であれば小テストを開催するかもしれません
- 第8回 幸福と孤独は両立するか(1)情緒と言語
- 第9回 幸福と孤独は両立するか(2)友情と承認
- 第10回 幸福は苦しみの埋め合わせになるか(1)生きることは不可避な苦しみがある
- 第11回 幸福は苦しみの埋め合わせになるか(2)幸福は生きる意味となるか
- 第12回 幸福以外の倫理学の原理は存在しないか
- 第13回 善く生きることと運命愛
- 第14回 後期のまとめ: 期末試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

紹介した参考文献を図書館や書店でめくってみること。
 興味の湧いた参考文献はとりあえず買って置くこと。
 授業で紹介した学説に飛躍や矛盾がないかを考え直したり、知人・友人とおしゃべりしてみることを。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	30%	授業全体の理解に関する問題。(1000字程度)
期末試験	30%	授業全体の理解に関する問題。(1000字程度)
レポート	0%	
平常点	20%	講義ノートを取っているかなどの授業態度で評価いたします。欠席者・早退者が目立つ場合、抜き打ちテストを催します。
その他	20%	授業の状況に応じて抜き打ちテストを課するかもしれません。

成績評価の方法・基準(備考)

無遅刻無欠席でも、平常点としての加算はありません。
 他の受講者の妨げとなりますので、私語が目立つ場合、学生証を提示してもらった上で、退室してもらいます。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎週の講義終わりの10分程度は、質問の時間に充てる予定です。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【参考文献】

授業内で適宜指示いたしますが、ひとまずは以下のものを提示しておきます。

斎藤哲也編『哲学史入門Ⅳ』NHK出版(2025年)

御子柴善之『カント 実践理性批判』角川書店(2024年)

児玉聡『功利主義入門 初めての倫理学』筑摩書房(2012年)

ダニエル・C・ラッセル編, 立花幸司監訳『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』春秋社(2015年)

オフィスアワー

その他特記事項

授業の妨害となるため、私語が目立つ場合、学生証を提示してもらった上で、教室から退去してもらう。
やむをえない事情がある場合は、必ず申し出ること。

参考URL

備考

科目名： 倫理学概論(他専攻)**担当教員： 尾留川 方孝**

履修年度：2026 学期：通年

開講曜日時限：金4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE2-J211

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:0

更新者：AC8022

更新日時：2026-01-05 14:25:4

授業形式

すべての授業回について、講義形式の面接授業を行います

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

古代から近世にいたる日本の倫理思想(背景にある外来の倫理思想を含む)について、代表的なものをとりあげ、どのような行為・行動や状況が倫理的とされていたのか、それらの根拠や背景となるのはどのような考え方なのかを学ぶ。

倫理学とは、善とはなにか、善いあるいは正しい行動や生き方はなにか、行動規範などについて、自覚的に一般性(普遍性)をもって考える学問である。善悪についてのその場限りの判断の集積でも、自分自身の倫理観に依拠して個別に善悪を論じるものでもない。

日本での倫理学は近代の西洋文明の受容によりはじまり、それ以前の日本ではこれに相当する学問は自覚的にはおこなわれていなかったとされる。「〇〇は善い」「△△するのが正しい」という倫理思想があるものの、その事実を意識的に振り返って原理や論理を考察することはなかったとされる。

しかし、これらの過去の様々な倫理思想を学ぶことで、倫理学に不可欠な、我々自身の倫理観を相対化する視点が得られるはずである。また、過去の倫理思想は現代の日本の社会にも、さまざまな形の痕跡をとどめているので、今、倫理について考えるときにも考察せねばならないものとなる。だから日本の倫理思想を学ぶ。

人は、独立した個人であると同時に、社会の影響から逃れられないので、倫理は個人と社会の両方にかかわる。近代化以前の日本では、人を社会の中で理解しようとする傾向が強く、独立した個人からはじまる考察は多くない。社会やその秩序(あるいは国家)はどうあるべきか、社会や国の制度や仕組みなどからも、倫理思想を抽出して学ぶ。

科目目的

古代から近世にいたる日本の倫理思想(背景にある外来思想を含む)について、代表的なものを学び、どのような行為・行動や状況が倫理的とされていたのを把握し、さらにその根拠や背景となる考え方を理解し、そのことを通して自分自身の倫理観も、さまざまな倫理思想の一つにすぎないと相対化する視点を身に付けて、みずから倫理を考える基礎を作る。

到達目標

日本の倫理思想(背景にある外来思想を含む)について、どのような行為・行動や状況が倫理的とされていたのか、代表的なものを示すことができ、さらにそれぞれどのような背景や根拠となる考え方があるのか、概要を説明できるようになる。

授業計画と内容

前期

- 01: ガイダンス: 倫理とは? 倫理・道徳・法律・慣習
- 02: 近代以前の日本の倫理思想の傾向: 社会と個人/ 儀礼/ 自分の思考は信頼できるか?
- 03: 日本の倫理のはじまり: 神話での天つ罪、赤心と黒心
- 04: 近代国家での神話利用の倫理: 皇国史観
- 05: 祭祀儀礼という倫理: 祭祀制度と伊勢神宮のはじまり
- 06: 祭祀儀礼の論理: 中国の災異説(天人感応説)と人民
- 07: 祭祀儀礼の延長としての仏教受容: 日本での仏教受容のはじまり
- 08: 因果を説く仏教: 『靈異記』の原理
- 09: 説話に描かれる蘇生と地獄: 現前を超える理論
- 10: 儀礼による社会の秩序化: 憲法十七条、乙巳の変の根拠、
- 11: 喪葬儀礼と踐祚大嘗祭による秩序化・序列化
- 12: 中国の古典に見る儀礼の理論: 内心と儀礼的行為、劉邦の即位儀礼
- 13: 儀礼が倫理となる根拠: 礼楽と荀子の性悪説
- 14: 死との接触の意味の反転: 礼の競合からケガレ観念へ

後期

- 01: 仏教の基本思想: 現世の世俗的価値の否定
- 02: 仏教思想と儒教倫理の対立: 儀礼と死後をめぐって
- 03: 浄土教に基づく自殺: 中国での現世否定の事例
- 04: 禅宗のはじまりと如来蔵思想
- 05: 馬祖の「あるがまま」および看話禅(公案禅): 倫理との対立の解消
- 06: 士大夫層の成立と宋学
- 07: 朱子学1: 理気二元論、理一分殊、性即理
- 08: 朱子学2: 格物窮理、七情と居敬

- 09: 陽明学: 心即理、知行一致
- 10: 中世日本の儒学と禅僧
- 11: 藤原惺窩と山崎闇斎
- 12: 林家: 朱子学の仏教からの独立
- 13: 日本での反朱子学: 伊藤仁斎、荻生徂徠
- 14: まとめと到達度確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	授業でとりあげた日本の倫理思想について、具体的に示し、さらにそれぞれの背景や根拠となる考え方がどのようなものか、論述式の問題により評価する。
レポート	0%	
平常点	30%	毎回、簡単な課題を出し、授業の理解度を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト:

特定のテキストは用いず、適宜レジメを配付する。

参考文献:

清水正之『日本思想全史』ちくま新書、2014年 (ISBN-10:448006804X、ISBN-13:978-4480068040)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 科学哲学研究**担当教員： 青木 滋之**

履修年度：2026 学期：通年

開講曜日時限： 木1

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-PE2-J213

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:0

更新者：AA1933

更新日時：2026-01-19 20:00:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

科学哲学philosophy of scienceは、19世紀前半に成立した、哲学の中では比較的新しい分野である。だが、「科学哲学」という名称は用いなかったものの、古代のアリストテレスの時代より実質的に同様の営みは存在していた。この講義では、科学哲学を<通時的>な縦の糸と、<共時的>な横の糸という二つの方向から詳しく見ていくことを通じて、科学哲学についての立体的な理解を得ることを主旨としている。

科目目的

- ・科学哲学を古代から現代まで通時的に辿ることで、科学哲学が同時代の科学および哲学の営みと相互作用、共進化してきたことを理解する。
- ・現代の科学哲学の諸問題を詳しく見ていくことで、共時的(現代的)な視点から、科学にまつわる哲学的な諸問題の存在を知る。
- ・以上を通じて、科学哲学が実のところ哲学の主要な底流であり、今後の哲学の発展にも重要であるとの展望を獲得する。

到達目標

- ・科学哲学の歴史的な発展、および現代での諸問題についての基礎的な知識をもち、それを明確に説明することができるようになる。
- ・科学哲学が哲学において有する位置づけについて、受講生なりの視座や展望をもち、それを明晰なしかたで論じることができるようになる。

授業計画と内容**【前期】科学哲学の通史**

- 第1回 授業イントロダクション
- 第2回 アリストテレスによる諸学問の設立
- 第3回 近代哲学の確立 デカルト1
- 第4回 近代哲学の確立 デカルト2
- 第5回 実験哲学の興隆 ベーコン
- 第6回 実験哲学の興隆 ロック、ニュートン
- 第7回 近代科学の基礎づけ カント
- 第8回 科学哲学前夜 ハーシェル
- 第9回 科学哲学の誕生 ヒューウェル
- 第10回 科学哲学講座の開設 マッハ
- 第11回 形而上学の克服 論理実証主義
- 第12回 科学哲学の歴史的転回 クーン
- 第13回 クーン以降の科学論
- 第14回 前期まとめ

【後期】科学哲学の諸問題

- 第1回 科学の方法
- 第2回 因果関係
- 第3回 科学的説明
- 第4回 反証主義
- 第5回 パラダイム論
- 第6回 リサーチプログラム論
- 第7回 科学的实在論論争
- 第8回 実験の科学哲学
- 第9回 モデルの科学哲学
- 第10回 科学と価値判断
- 第11回 生物学の哲学
- 第12回 物理学の哲学1
- 第13回 物理学の哲学2
- 第14回 後期まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 前期および後期に、定期試験を行います。
レポート	0%
平常点	50% 授業前にミニクイズ、授業後に出席確認クイズを出題します。 ※前期および後期の、いずれかの4回以上の無断欠席で、「F」とします。自分で、出席回数をしっかり管理することが必要です。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業では教科書は指定せずプリントを配布し、一次文献および二次文献は「コースコンテンツ」で配布していきます。この授業に密接に関係する教科書、研究書を以下に挙げておきますが、他の文献についても授業内で適宜紹介していきます。

John Losee, A Historical Introduction to the Philosophy of Science (4th edition), Oxford University Press, 2001
ジョン・P. ロゼー『科学哲学の歴史』, 常石敬一訳, 紀伊国屋書店, 1974[原著1972]
伊勢田哲治『科学哲学の源流をたどる』, ミネルヴァ書房, 2018
内井惣七『科学哲学入門』, 世界思想社, 1995
金森修・中島秀人編著『科学論の現在』, 勁草書房, 2002
戸田山和久『科学哲学の冒険』, NHKブックス, 2005
Jarrett Leplin (ed.), Scientific Realism, University of California Press, 1984
須藤靖・伊勢田哲治『科学を語るとはどのようなことか』(増補版), 河出書房新社, 2021
松王政浩『科学哲学からのメッセージ』, 森北出版, 2020
マイケル・ワインバーグ『科学とモデルシミュレーションの哲学 入門』, 松王政浩訳, 名古屋大学出版会, 2017[原著2013]
エリオット・ソーパー『進化論の射程 生物学の哲学入門』(新装版), 松本俊吉ほか訳, 春秋社, 2024[原著2000]
ティム・モードリン『物理学の哲学入門 I』, ジミー・エイムズ監訳, 勁草書房, 2025[原著2012]

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(1)(11)

担当教員： 出村 和彦

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J301,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:0

更新者： AA2435

更新日時： 2026-01-10 11:23:4

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、アウグスティヌス にとってギリシアローマ古典的人間論が聖書解釈を通じて、「心」を中心としたキリスト教的人間論に変容する過程を、彼の身体的表現や場所的表現を手がかりに哲学的に解明していきます。

科目目的

この講義では、以下の3点を目的とします。

- ① アウグスティヌスの初期中期作品の内容をテキストに即して正確に理解すること。
- ② 彼の思想的背景の視野に入れて、彼の「人間理解」が何であったかを理解すること。
- ③ 現代における倫理的な問題状況において、アウグスティヌスの考え方がどの程度有効に機能するのかを検証すること。

到達目標

アウグスティヌスの原初的問題のいくつかを考察を通じて、彼の哲学することの独自性を理解する。

その上で、彼の哲学・人間理解が現代のさまざまな倫理的問題に対してどの程度有効であるのかを、自分なりに批判的に吟味できるようになることをこの講義の最終目標として掲げたいと思います。

授業計画と内容

1. イントロダクション「問題の所在」:アウグスティヌスと対話編・アウグスティヌスと聖書註解
2. 新約聖書の「身体」への原点:
3. カッシキアム対話編(1)
4. カッシキアム対話編(2)
5. その他の対話編
6. 『シンプリキアヌスへ』(1)
7. 『シンプリキアヌスへ』(2)
8. その他のパウロ註解
9. 『告白録』(1)
10. 『告白録』(2)
11. 『告白録』(3)
12. 『告白録』(4)
13. 『告白録』(5)
14. 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

テキストを自分なりに読み進めることが望ましいので、毎回、指定した箇所を事前に何度も熟読し、自分なりの読書ノートを作成してから授業に臨むようにしてください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	65%	講義で取り上げた主題について、最長でも3,000字、2000字以上を目安に、小論文を提出してもらいます。
平常点	35%	毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は14回あるので、2.5 x 14=35とカウント。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書: 出村和彦『アウグスティヌス「心」の哲学者』岩波新書 ISBN :978-4-00-431682-4
その他、講義の中で集中して共同で検討する箇所のpdfテキストはmanabaで配布します。
その他の参考文献に関しては授業でその都度、指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 哲学講義(1)(11)

担当教員: 和田 有希子

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 水2

配当年次: 3年次配当

科目ナンバー: LE-PE3-J301,LE-PE4-J31

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:0

更新者: AD1166

更新日時: 2026-01-09 10:53:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、禅について多角的に検討していきます。禅は、仏教の一つの宗派ということ以上に、日本文化との関わりが指摘されたり、あるいは欧米の起業家などの精神的支柱になった経緯を持ちます。なぜ禅はそのような多様な価値を現出する「哲学」であり得たのでしょうか。本講義では、禅が日本で広く受け入れられた中世を中心に、禅の歴史的な展開とその意義を検討し、禅が持っている様々な「哲学」について考えていきたいと思います。西洋哲学とはまた違った物の考え方に触れることになることでしょう。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」「複眼的思考」を主体的に習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ① 禅宗の展開を知ることから、思想がいかに重層的に展開するかを知ること。
- ② 禅宗のもつ哲学から、多様なものの考え方の存在を知ること。
- ③ 既存の枠組みで物事を捉えることの限界を知り、既存の枠組みの成立過程を自覚し、その妥当性を判断しつつそれを超えた見方ができるようになること。

授業計画と内容

- I 禅の見方
 - 1 イントロダクション:なぜいま禅を考えるのか
 - 2 禅宗史叙述の変遷とこれまでの禅の捉えられ方
- II 日本中世禅がもたらした哲学的課題
 - 3 栄西から見直す禅
 - 4 栄西の密教思想から捉え直す禅の意義
 - 5 栄西と中国・宋代思想との関わり:栄西の禅の見直し
 - 6 栄西の戒律:「創造」される禅
 - 7 道元禅の再検討
 - 8 鎌倉中期思想界への禅のインパクト:京都東福寺開山円爾(1202~80)の到達点
 - 9 栄西から円爾へ:中国・唐末~南宋の禅の動向と鎌倉期における受容
 - 10 円爾周辺・円爾門下の禅の受容と展開
 - 11 鎌倉中後期以降の禅の諸方面への影響:神道説・能楽・世界観の変化
 - 12 「純粹な」禅とは何か:瑩山紹瑾の「純一の禅」、宗峰妙超の教宗批判と禅、一休の「破戒」と禅
 - 13 禅の哲学:言葉を超越することと言葉を持つこと
 - 14 総括:禅の見直しから見えてくる禅という「哲学」

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 期末に、講義で取り上げた内容に関してレポートを提出してもらいます(3000字程度)。
平常点	50% 毎回授業の最後に、リアクションペーパーを書いてもらいます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

授業では、当方で作成したレジュメを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(2)(12)**担当教員： 出村 和彦**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限： 火1

配当年次：3年次配当

科目ナンバー：LE-PE3-J302,LE-PE4-J31

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:55:0

更新者：AA2435

更新日時：2026-01-10 11:31:3

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、アウグスティヌス(354-430)の生涯を通じた真理探究、特に前半生のキリスト教に至る様々な出会いや後半生の司教としての働きを通じて見えてくる彼のキリスト教的死生観と人間論の特徴的な観点をわかりやすく講義する。哲学と宗教との相互補完的な関係を、具体的にアウグスティヌスの生涯とその思想を通じてキリスト教の成立の場面で考察していきます。これを通してキリスト教古代の思想哲学(教父哲学)の基礎知識を歴史的に説明していきながら解明していきます。

科目目的

アウグスティヌスの生涯とその思想を詳細にたどることで、わかったようで実はあまり知られていないキリスト教の源流、いわば根っこをしっかりと理解できるようになることを目指します。

到達目標

この講義では、キリスト教古代についての基礎的知識を習得すること、そして、特にアウグスティヌスの探究を視野に入れた西欧思想の源流と展開、さらにこれの日本を含む近世近代現代哲学の影響を理解すること。

授業計画と内容

1. イントロダクション はじめに:授業の進め方:真の宗教を求めて :アウグスティヌスの探究の人生
- 2 アウグスティヌスの探究とキリスト教との出会い(1):ラテン文学と修辞学の教育
- 3 アウグスティヌスの探究とキリスト教との出会い(2):哲学との出会い、マニ教(善悪二元論)へ
- 4 アウグスティヌスの探究とキリスト教の理解(1):「心」内的理解
- 5 アウグスティヌスの探究とキリスト教の理解(2):回心とその後の出発点
- 6 アウグスティヌスから学んで(1)愛の秩序『告白録』キリスト教文化の指針
- 7 アウグスティヌスから学んで(2)永遠と時間:神の国
- 8 アウグスティヌスの人間論と死生観(1)
- 9 アウグスティヌスの人間論と死生観(2)
- 10 アウグスティヌスの人間論と死生観(3)
- 11 アウグスティヌスの人間論と死生観(4)
- 12 アウグスティヌスの人間論と死生観(5)
- 13アウグスティヌスの人間論と死生観(6)
- 14 まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	65%	課題を提出するので、その課題に即したレポートを期末に提出してもらう。
平常点	35%	毎回の講義に関して、manabaの「レポート」機能を使って、簡単な問いに答えてもらう。講義は14回あるので、2.5 x 14=35とカウント。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- * 授業で使用するテキスト
出村和彦『アウグスティヌス「心」の哲学者』岩波書店、2017年、岩波新書新赤版1682、ISBN978-4-00-431682-4
- * 参考文献その他資料は配布します。
上記テキストや講義で取り上げる箇所以外でも、アウグスティヌス『告白』I, II, III 山田晶訳(中公文庫)は各自読み進めてもらいたい。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(2)(12)

担当教員： 和田 有希子

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J302,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:0

更新者： AD1166

更新日時： 2026-01-09 10:52:1

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

前期には、主に禅の歴史的、思想的展開について検討しましたが、本講義では、西田幾多郎と旧知の仲で、互いに影響を与え合い、自らは禅を欧米に知らしめ、禅の持つ普遍的な価値を世界にアピールした鈴木大拙(1870～1966)の著作を読み解くことで、近代において禅がどのような意義を持ったのかについて考えます。鈴木大拙は、禅を基盤にしなが、ウィリアム・ジェイムズほか同時代の欧米の思想の潮流に触れながら、当時政治的な意味合いを背景に強い力を持っていたキリスト教など一神教的価値観に対する東洋思想の特色、西洋思想と仏教との関わりなど、幅広い言説を残しています。そうした中で彼は、結果的に、近代をどう超えるか、つまりポストモダンの思想の行方を考えさせる方向性を論じています。大拙を考察することで、当時の西洋思想における課題や動向も逆に照射できます。日本から発信されたポストモダンの思想はどのようなものか、ポストモダンの哲学に必要とされる要素とは何なのか、それが禅とどう関わるのか。一緒に検討していきましょう。

科目目的

この科目は、学生が学位授与の方針で示す「幅広い教養」「複眼的思考」を主体的に習得することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ① 鈴木大拙がどのような人物であり、どのような著作を残したのかについて知ること。
- ② 鈴木大拙が、その当時の世界に、禅を通して何を発信しようとしたのかについて知ること。
- ③ 鈴木大拙の言説の背景となっている諸思想がどのようなものなのかを理解すること。
- ④ 鈴木大拙の思想から、近代という時代が何をもたらしたのかということに自覚的になること。
- ⑤ 鈴木大拙の思想が、現在でも常識になっている社会システム、倫理観に対して、どのような視点を持っているかを知り、これからの哲学の行方について考えることができるようになること。

授業計画と内容

I 大拙の出発点

1. イントロダクション: いまなぜ鈴木大拙なのか
2. 鈴木大拙に影響を与えた人々: 鎌倉円覚寺禅僧、今北洪川と釈宗演

II 大拙思想が課題とするもの: 近代とは何か

3. 1893年万国宗教会議における一神教と多神教の議論
4. 西洋近代思想の受容と近代への批判: 『新宗教論』を読む
5. 『大乘仏教概論』を読む(1): 西洋の学問観の批判
6. 『大乘仏教概論』を読む(2): 近代における『大乘起信論』への注目とその意味
7. 『日本的靈性』を読む(1): 宗教意識(靈性)重視の意味
8. 『日本的靈性』を読む(2): 言葉を超えることと近代の価値観との関係

III 大拙思想を支える思想

9. 神秘思想と結びつく禅: ブラバツキー神智学との関わりから
10. 大拙の見る禅: 中国唐代～宋代禅の展開の観点から
11. 禅はなぜ近代仏教に寄与できたか: 方便を超える性質とその意義

IV 大拙思想・禅とこれからの哲学

12. 歴史をどう叙述するか: 大拙と中国歴史学者胡適との論争
13. 近代的価値観をどう乗り越えるか
14. 総括: 大拙禅の伝播とポストモダンの哲学へ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 期末に、講義で取り上げた内容に関してレポートを提出してもらいます(3000字程度)。
平常点	50% 毎回授業の最後に、リアクションペーパーを提出してもらいます。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

当方でレジメを用意しますが、授業で使用するテキストについて、比較的入手しやすいものについて記しておきます。その他、図書館で借りることのできる必要な文献については講義内で紹介します。

《授業で使用するテキスト:参考までに》

- ・鈴木大拙著・佐々木閑訳『大乘仏教概論』(2016年 岩波文庫 青323-4)
- ・鈴木大拙著『日本的靈性』(2010年、角川ソフィア文庫)
- ・鈴木大拙著・板東性純・清水守拙訳『神秘主義—キリスト教と仏教』(2020年 岩波文庫 青323-6)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(3)(13)

担当教員： 瀬嶋 貞徳

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J303,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:0

更新者： AB4446

更新日時： 2026-01-02 12:03:4

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。具体的にはムーアの論文を日本語で読み、その内容を説明していきます。

履修条件・関連科目等

哲学講義(4)(14)

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

西洋哲学において「道徳哲学」とは何であったのかについて考えるとともに「義務」「善」についての理解を深めていきます。参加者にも意見を求めます。

科目目的

この講義の目的は以下のとおりです。

- ①「道徳性」とは何であるのかの基本的理解。
- ②ムーアの「道徳の心理的解釈批判」の理解。
- ③哲学を専門に勉強する意義について考えることができること。

到達目標

哲学の論文を読むための基礎的な能力を得ること。

授業計画と内容

1. ガイダンス
2. 「道徳性」の概念
3. 「道徳的善」と「自然的善」
4. 道徳と法律の区別
5. 道徳的義務と道徳的不正
6. 消極的法則と積極的法則
7. 義務的法則と理想的法則
8. 「道徳的義務」と「善」
9. 「客観的」観念と「心理的」観念
10. 「道徳的責務」の心理的解釈
11. 「義務」の心理的解釈に対する異論
12. 「善」の心理的解釈
13. 「善」の心理的解釈に対する異論
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	50% 前期末にレポート課題を課します。
平常点	50% 出席、積極的に議論に参加するかどうかを評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考資料については、manaba 上で公開します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 哲学講義(4)(14)

担当教員: 瀬嶋 貞徳

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 3年次配当

科目ナンバー: LE-PE3-J304,LE-PE4-J31

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:55:0

更新者: AB4446

更新日時: 2026-01-02 13:00:4

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。具体的にはムーアの論文を日本語で読み、その内容を説明していきます。

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

ムーアの常識擁護の思想について講義します。

科目目的

この講義の目的は以下のとおりです。

- ①ムーアの哲学の基本的理解。
- ②「物的事実」「心的事実」「感覚与件」について自ら考えることができる。

到達目標

「価値」「倫理」について基礎的な理解を得ること。

授業計画と内容

1. ガイダンス・ムーアの思想
2. 自明な命題の目録
3. 「真」という語の意味
4. 日常的用法と関係する「微妙な意味」
5. 日常的用法の正確な分析の問題
6. 物質や意識を否定する矛盾
7. 意識を信念とみなす矛盾
8. 「心的事実」の種類
9. 心的事実の論理的依存に対する異論
10. 心的事実の因果的依存に対する異論
11. 事物の部分としての「感覚与件」
12. 事物と「感覚与件」の関係の分析
13. 「仮説的事実」の一組全体としての事物
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	50% 後期末にレポート課題を課します。
平常点	50% 出席、積極的に議論に参加するかどうかを評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義内で適宜、参考文献を提示します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(5)(15)

担当教員： 佐藤 陽祐

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 金3

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J305,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:0

更新者： AA2233

更新日時： 2025-12-30 15:16:5

授業形式

本授業は対面形式によって行われます。オンライン受講できる者は、学内、学部で定められた手続きを踏んだ者のみとし、それ以外でのオンライン受講は一切認めません。

履修条件・関連科目等

心や意識、知覚の問題について関心があること。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

現代の哲学シーンでもホットな議論が交わされ、かつ伝統的な問題群でもある「心の哲学」について学んでいきます。

科目目的

心の哲学について基礎的な理解を得ること。

到達目標

この講義の目的は主として3つあります。

- ① 哲学的に考え、議論ができるようになること。
- ② 諸君がこれまでに行ってきた「勉強」とこれから行う「学問」の違いを知ること。
そして、学問がどれほどおもしろいものなのかを体感すること。
- ③ 現在スリリングな研究が行われ、議論が活発な「心の哲学」について学ぶことによって、学問として専門的に哲学をすることの糸口をつかみ、諸君の興味範囲を拡大していくこと。

授業計画と内容

1. イントロダクション
2. 「心の哲学」という研究領域について
3. 意識についての問題
4. クオリアと意識のハードプロブレム
5. 意識経験の構造について
6. 私たちは何を体験しているのか
7. 心の志向性について
8. 心の因果性について—心脳同一説と機能主義
9. 他者の心について
10. エモい！—情動の本性について
11. 認知哲学の流れ
12. 古典的計算主義とコネクショニズム
13. 拡張する心
14. ホワイトヘッドの意識論

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教材中の語句、事項や文法については、事前に調べておき、質問されたら答えられるようにしておきましょう。予習をして来ない者は出席の資格が無いものと心得ましょう。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100% 学期末に、講義でとりあげた主題について、試験を課します。
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

参考資料については、適宜コピーを配布します。

参考図書:
ティム・クレイン、土屋 賢二訳、『心は機械で作れるか』勁草書房、2001年。
金杉武司『心の哲学入門』勁草書房、2007年
鈴木貴之『ぼくらが原子の集まりなら、なぜ痛みや悲しみを感じるのだろうか』勁草書房、2015年
信原幸弘『心の現代哲学』勁草書房、1999年
柴田正良『ロボットの心——7つの哲学物語』講談社現代新書、2001年
など

他にもたくさん参考文献はあります。学習が進み、興味が拡大したら講師に遠慮なく尋ねること。

オフィスアワー

その他特記事項

成績評価をとつともなく厳しく行うので、努力、根性、気合いを見せてほしい。学位を取得しようとするならば、大学で学問をする覚悟と気概を持つこと。

学部が認める公欠以外で、4回以上の欠席は単位認定を行わない。

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(6)(16)

担当教員： 佐藤 陽祐

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 金3

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J306,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:0

更新者： AA2233

更新日時： 2025-12-30 15:28:4

授業形式

本授業は対面形式によって行われます。オンライン受講できる者は、学内、学部で定められた手続きを踏んだ者のみとし、それ以外でのオンライン受講は一切認めません。

履修条件・関連科目等

市民社会に生きるわれわれの公共圏にある諸問題について関心があること。
現実の問題を自分の頭で徹底的に考え抜いてみたいという強い意欲があること。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

公共哲学という分野を確認し、公共圏に属する諸問題を取り上げ、皆で議論を行います。

科目目的

この講義の目的は主として3つあります。

- ①哲学的に考え、議論ができるようになること。
- ②諸君がこれまでに行ってきた「勉強」とこれから行う「学問」の違いを知ること。
そして、学問がどれほどおもしろいものなのかを体感すること。
- ③われわれの公共圏にあるリアルな諸問題に対して、市民社会に生きる一人の人間としての私たちのあるべき姿を考えながら徹底的に検討し、学問として専門的に哲学をすることの糸口をつかみ、諸君の興味範囲を拡大していくこと。

到達目標

公共圏に存するリアルな諸問題に対して、自分なりの「構え」や価値観を醸成していくこと。

授業計画と内容

1. イントロダクション&公共哲学とは何か(1)
2. 公共哲学とは何か(2)
3. 専門知はもういらぬのか
4. インクルーシブという思想
5. リスクへの補償のあり方とその問題について
6. 集団の意思決定の方法について—社会的選択理論
7. 異なる他者とのように共存するか—寛容と公共性—
8. 移民との共生について
9. 生命科学・生命倫理と市民社会(1)
10. 生命科学・生命倫理と市民社会(2)
11. 福祉の哲学
12. 科学技術における公共的問題
13. 民主主義はオワコンなのか
14. 実践的に考える—公共哲学はあなたの問題

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100% 学期末に、講義でとりあげた主題について試験を課します。
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

講義で使用するテキストや資料は、manabaにPDFファイルをアップします。

講義内で適宜、参考文献を提示します。

参考文献

山脇直司『公共哲学とは何か』ちくま新書,2004.

マイケル・サンデル『公共哲学 政治における道徳を考える』ちくま学芸文庫,2011.

オフィスアワー

その他特記事項

成績評価を非常に厳しく行うので、努力、根性、気合いを見せてほしい。学位を取得しようとするならば、大学で学問をする覚悟と気概を持つこと。

参考URL

備考

科目名： 哲学講義(7)(17)

担当教員： 大川 真

履修年度： 2026 学期： 前期

開講曜日時限： 金1

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J307,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:0

更新者： AA1734

更新日時： 2026-01-10 19:33:2

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

この授業は対面形式によって行われる。

- 1, 授業では最後の20分間でオンラインレポートを提出してもらうので、ノートパソコンやタブレットパソコンなどを教室に持参すること。
- 2, 授業では冒頭で数名のレポートを取り上げて私からリプライを行う。
- 3, 授業中に数名を指名して、資料を読み上げてもらったり、質問に答えてもらう。
- 4, 受講者同士で熟議を行う。

受講に際しては以上の点をすべて了承すること。

なおこの授業は後期に開講される哲学講義(8)(18)と連続するので、継続して受講することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

【フェミニズム政治学入門】

フェミニズム政治学とは、政治・権力・制度・公共性を、ジェンダー(性差)と権力関係の観点から再検討し、近代政治理論や現実の政治制度がどのように女性やマイノリティを排除・周縁化してきたかを批判的に明らかにする政治学の一分野です。この授業ではフェミニズム政治学を代表する論者の著作を読んでいきます。

科目目的

以下のことを目標に、フェミニズム政治学を代表する論者の1人であるキャロル・ペイトマンの著作を輪読していきます。

- 1, 近代政治の基礎にあるのは、社会契約(social contract)だけではなく、性的契約(sexual contract)が存在することを理解すること。
- 2, 女性がケア領域に押し込められるなかで、公私の二分法的領域や「主体」概念が形成された経緯を理解すること。

到達目標

キャロル・ペイトマンの著作を学ぶことで、以下の二つの点を到達目標とします。

- 1, ホブズ・ロック・ルソーの社会契約が成立した条件を多面的に考察できる。
- 2, リベラリズムが前提とする「同意」「選択」「自己決定」への批判的感覚を養うこと。

授業計画と内容

- 第1回 Introduction
- 第2回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第1章
- 第3回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第2章
- 第4回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第3章 前半
- 第5回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第3章 後半
- 第6回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第4章 前半
- 第7回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第4章 後半
- 第8回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第5章 前半
- 第9回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第5章 後半
- 第10回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第6章 前半
- 第11回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第6章 後半
- 第12回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第7章 前半
- 第13回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第7章 後半
- 第14回 キャロル・ペイトマン『社会契約と性契約』第8章

※進み具合によって授業内容に多少の変更が生じる可能性があります

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%
平常点	100% 毎回の小レポート100%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業では最後の20分間でオンラインレポートを提出してもらうので、ノートパソコンやタブレットパソコンなどを教室に持参すること。また前期後期それぞれ5回以上の欠席があった場合には、その時点で単位認定はできない。また遅延証明等のない大幅な遅刻(おおよそ授業開始から20分以上経過の入室)は平常点の大幅な減点(10点換算で3点減点)を行う。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

質問などはmanabaの「個別指導」で受け付けます。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

本学で契約しているジャパンナレッジ等の電子事典を使って、その場で調査します。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
キャロル・ペイトマン著、中村敏子訳『社会契約と性契約』(岩波書店、2017年)
※以上のテキストについては必要部分をコピーPDFにて受講生にお送りします。

参考文献は、授業で指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

この授業は対面で行う。合理的配慮が必要な場合は、2026年4月末日までに所属学部のCSWに申し出ること。それ以降の申し出については対応出来ない。

参考URL**備考**

科目名： 哲学講義(8)(18)

担当教員： 大川 真

履修年度： 2026 学期： 後期

開講曜日時限： 金1

配当年次： 3年次配当

科目ナンバー： LE-PE3-J308,LE-PE4-J31

登録者： admin

登録日時： 2025-10-02 06:55:0

更新者： AA1734

更新日時： 2026-01-12 12:13:2

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います。

履修条件・関連科目等

この授業は対面形式によって行われる。

- 1, 授業では最後の20分間でオンラインレポートを提出してもらうので、ノートパソコンやタブレットパソコンなどを教室に持参すること。
- 2, 授業では冒頭で数名のレポートを取り上げて私からリプライを行う。
- 3, 授業中に数名を指名して、資料を読み上げてもらったり、質問に答えてもらう。
- 4, 受講者同士で熟議を行う。

受講に際しては以上の点をすべて了承すること。

なおこの授業は前期に開講される哲学講義(7)(17)と連続するので、継続して受講することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

【フェミニズム政治学入門】

フェミニズム政治学とは、政治・権力・制度・公共性を、ジェンダー(性差)と権力関係の観点から再検討し、近代政治理論や現実の政治制度がどのように女性やマイノリティを排除・周縁化してきたかを批判的に明らかにする政治学の一分野です。この授業ではフェミニズム政治学を代表する論者の著作を読んでいきます。

科目目的

以下のことを目標に、フェミニズム政治学を代表する論者の1人であるスーザン・モラー・オーキンの著作を輪読していきます。

- 1, ジョン・ロールズの正義論が家族・私的領域を排除としたスーザン・オーキンの主張を理解すること。
- 2, ケア労働を政治哲学の領域に可視化したスーザン・オーキンの主張を理解すること。

到達目標

スーザン・モラー・オーキンの著作を学ぶことで、以下の二つの点を到達目標とします。

- 1, ロールズの正義論に対して、「家族」という場における人格形成・機会配分・ジェンダー役割の再生産の役割に着目したスーザン・オーキンの主張を理解した上で、正義論のさらなるバージョンアップを各自で行うこと。
- 2, ロールズ正義論に対して、フェミニズムの立場から内在的批判を行ったスーザン・オーキンの論説とケア倫理学の代表的論説との間での類似点、また相違点を明晰に考察すること。

授業計画と内容

- 第1回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第1章
- 第2回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第2章前半
- 第3回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第2章後半
- 第4回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第3章前半
- 第5回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第3章後半
- 第6回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第4章前半
- 第7回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第4章後半
- 第8回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第5章前半
- 第9回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第5章後半
- 第10回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第6章前半
- 第11回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第6章後半
- 第12回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第7章前半
- 第13回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第7章後半
- 第14回 スーザン・M・オーキン『正義・ジェンダー・家族』第8章

※進み具合によって授業内容に多少の変更が生じる可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

配布するプリントを、授業前に一通り読んでおくこと。また授業後には、授業で割愛した部分について、参考文献によって補うこと。神話で用いられている特徴的な表現や事物の名前などは、各種辞書を用いて理解を深めること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	0%
平常点	100% 毎回の小レポート100%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

授業では最後の20分間でオンラインレポートを提出してもらうので、ノートパソコンやタブレットパソコンなどを教室に持参すること。また前期後期それぞれ5回以上の欠席があった場合には、その時点で単位認定はできない。また遅延証明等のない大幅な遅刻(おおよそ授業開始から20分以上経過の入室)は平常点の大幅な減点(10点換算で3点減点)を行う。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

本学で契約しているジャパンナレッジ等の電子事典を使って、その場で調査します。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
スーザン・M・オーキン著、山根純佳ほか訳『正義・ジェンダー・家族』(岩波書店、2013年)
※以上のテキストについては必要部分をコピーPDFにて受講生にお送りします。

参考文献は、授業で指示します。

オフィスアワー

その他特記事項

この授業は対面で行う。合理的配慮が必要な場合は、2026年9月末日までに所属学部のCSWに申し出ること。それ以降の申し出については対応出来ない。

参考URL**備考**
